



## 「何となく」のネットの使い方にルールを

インターネットが生活の中の当たり前になって久しいのですが、子供同士でも SNS を巡るトラブルが全国的にも日常的に起こっているようです。具体的には、友達とメッセージアプリでやり取りをしていたら、行き違いが生じてけんかになった、ネットに夢中になってタブレットが手放せない等枚挙にいとまがありません。このように、ネットに釘付けになることは、私たちでも日頃から体験していることで、わかります。例えば調べようとするつもりが、ついホーム画面に表示されたニュースを読んでしまい、関連するページをクリックしてしまいます。ニュースの小見出しは、本当に上手く気をひくように作ってあると感心するばかりです。そして気が付くと、最初の目的とは違うサイトを開いていたということもあります。



このように、ネット世界にいると、新しい情報が入って来るような気がします。しかし、頭の中に内容があまり残っていないような感覚があります。それはおそらく受動的に「何となく」情報に触れているからだと考えます。この「何となく」に是非、「自分でルールを作る」ことをお勧めします。熊本市からタブレットを貸し出すときに、ルールは作っては見たものの、時が経った今、そのルールも形骸化していませんか？タブレットやスマホを使い慣れてきたこの時期に、もう一度ルールを決めることで、より自分に合ったルールになると思います。ルール化するに当たって、先ず、使う時間や場所、どんなアプリを使っていいかを決めます。そして「自分の名前など個人情報はSNSに載せない」「他人の悪口をネットに書き込まない」などの使い方の確認もしておくといいでしょう。ルールは紙に書いて、冷蔵庫など家族みんなが見やすい場所に貼っておきます。もしルールを守らなかったらどうするのかも、家族と一緒に決めておくこともルール作りに必要なことです。

「何となく」のままでは、ネットに「使われている」状態と言えます。ネットは本来は「使う」ものです。私たちが「使いこなす」ことによって、情報化社会を生き抜くツールとなっていくはずで

## 学校百景② 金木犀

この季節になると校内に、とてもいい香りが漂ってきます。その香りの発信源が金木犀(きんもくせい)の木々です。多くの日本人は、金木犀の香りがすると「秋の到来」を認識し、秋の花としての知名度は高いようです。校内の敷地には、数本の金木犀が植えてあり、今はオレンジ色の花を咲かせています。名前の由来は、樹皮が動物の犀(サイ)の肌似ているからと言われています。金木犀の原産国は、中国南部と考えられていて、中国では、生花の香りも好まれています。お茶やお酒のフレーバーとしても人気があります。たとえば桂花茶や桂花陳酒などです。桂花茶とは、お茶に乾燥させた金木犀の花を混ぜたお茶で、桂花陳酒は、金木犀の花を白ワインに漬けたものです(中国では「桂」は木犀を意味します。金木犀の他にも銀木犀などもあります)。

今日も休み時間になると、子供たちが「いいにおいがするね。」と言いながら、金木犀の横を駆け抜けて行きました。

